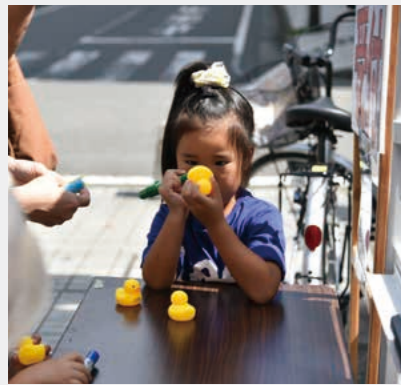




クローズアップ
CLOSE UP

広瀬川を楽しむ2日間

9月15日と16日に街中リバーフェス in 広瀬川を開催しました。SUPやカヤック、リバーボートによるレースや、指定箇所を撮って回りタイムを競うフォトオリエンテーリング、おもちゃのアヒルを競わせるダックレースを実施。観覧者からは大きな声援が送られました。



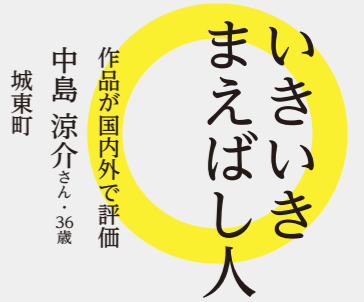
トライアスロンに挑戦

9月16日に前橋トライアスロンフェスタを開催しました。日本一やさしいトライアスロンとして開催しているこの大会には3歳から75歳まで、日本一幅広い年齢の選手が参加。参加者の多くは、大変だったけれどまた挑戦したい、と次の大会への意欲を見せていました。



恵比寿から前橋を発信

9月7日・8日に恵比寿ガーデンプレイスで、水戸市、宇都宮市、高崎市と本市の北関東4市が連携して、きたかんマルシェを開催しました。各市自慢の名産品や農畜産物が一度に並ぶ大物産展。連日多くの人でにぎわい、北関東4市の魅力を堪能しました。

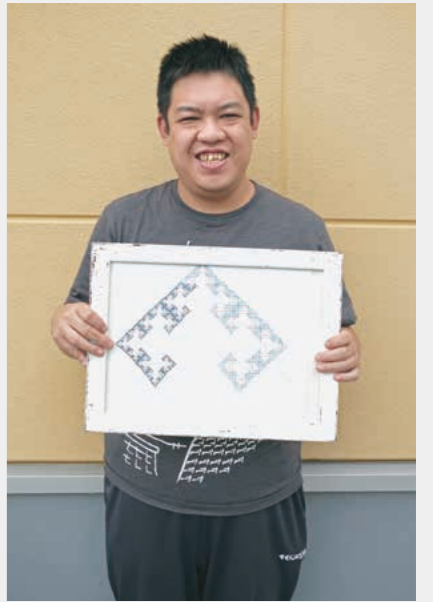


作品が国内外で評価
中島涼介さん、36歳
城東町

記号と文字で創る世界

障害者支援事業所の光明園に通う中島さん。幼少期に自閉症と診断され、15歳ごろからボールペンなどで記号のよな線を無数に重ねた作品を描き始めた。次第に、図書館へ出掛けるときに見た看板や辞書などから文字を取り入れるようになった。覚える文字は気に入った形のもの。作品の紙一面を埋め尽くした記号や文字には、見る人を圧倒する力がある。

そんな特徴的な制作手法の作品が今、国内外で注目を集めている。昨春秋、フランス国内の企画展に参加したこときっかけに、スウェーデンで6・7月に開かれた企画展に出品。9月にパリで開かれた展示会へも出品した。作品は複数の物を並行して制作している。昼休みの時間に少しずつ、気持ちの赴くままに描く。中島さんの母は「息子にとって描くことは気分を落ち着かせる安定剤のようなもの。生活の一部です」と語る。自閉症と向き合いながら制作に取り組み続けて約20年。継続的に製作してきた作品が評価され、活躍の場が大きく広がった。



暮らしに密着
工科大 LABO

前橋工科大
☎ 027-265-0111

Vol.3



今回は
生命情報学科です

前橋工科大は、科学と工学で生活を快適に、安全に、そして持続可能にすることを目指しています。このコーナーでは、日々行っている研究内容や暮らしに役立つ豆知識を各学科から紹介。今回は生命情報学科の坂田克己教授がお届けします。



生命情報学科ではゲノムDNAの情報や計算機で解析することで生命現象を解明し、医療や

産業に役立てることを目指しています。本市はかつて養蚕業が大変盛んでした。それにちなんだ最近の研究をご紹介します。カイコは野生の蛾(クワコ)を家畜化したものです。良質の絹糸を生産するために育種・改良されてきましたが、この過程でカイコは飛べなくなりました。この変化にはどのような遺伝子要素が関わっているのでしょうか。これを調べるため、飛翔筋に関わる3種類の遺伝子をカイコとクワコで比較してみました。筋肉の安定性に関わる遺伝子1に変化はなし。しかし、筋組織の組み立てに関わる遺伝子2と筋組織の中核となるタンパク質を作る遺伝子3に10〜20%の違いが見られたのです。ここから、飛翔能力の退化には、羽の運動そのものではなく、羽を動かす筋肉の強度が関わっていると分かりました。この結果は運動障害の研究や、他の生物の育種にも応用できる可能性があり、現在も研究を進めています。今回は、医療・福祉を工学的視点で研究しているシステム生体工学科からお届けします。

